

講義タイトル : Beyond Borders: Navigating Health Knowledge for Well-being
開講日程 : 火曜六限 19:00-20:30 ※初回 : 10 月 14 日 ※WEB 講義
授業コード : 31M220-1378A / 31D220-1378A
共有コード : GAS-AS6H07L5

東京大学大学院講義「地域文化研究特殊研究 V」概要

今年で 15 年目を迎える学際講義「地域文化研究特殊研究 V」。今期のテーマは「Beyond Borders: Navigating Health Knowledge for Well-being」です。本講義では「国境を越えた知識と資本の連携を通じて『UHC × ウェルビーイング』をいかに実現し、アジアにおけるがんや NCDs（非感染性疾患）の負担を大幅に軽減できるか？」という問いに焦点を当てます。UHC（ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ）とウェルビーイングをキーワードに、高所得国発の知識体系と低・中所得国（LMICs）の知見をいかに結びつけるかを検討します。また、公共セクター（UHC 政策）と民間セクター（投資・ビジネスイノベーション）の双方を活用した協働的ソリューションのデザインにも取り組みます。さらに、がんや NCDs といったアジアの喫緊の健康課題に対して、生成 AI などの最新技術を活用し、産官学連携による価値共創型の実践的実装デザインを探索します。 [＜講義サイトはこちらをクリック＞](#)

本講義の特徴

「社会実装」への寄与実感: 自分の研究成果や専門知識が社会課題の解決にどう活かせるかを具体的に掴むことで、研究の意義が広がります。講義を通じ研究の社会実装力が身についたと感じられれば、将来、産官学連携プロジェクトやスタートアップ参画などキャリアの選択肢も増えるでしょう。

1) 政策連携スキルの習得

政策提言レポートの作成や政策関係者との議論を経験することで、科学を政策へブリッジする能力が高まります。これは今後、研究費獲得のための科学政策理解や、自身の専門分野で政策提言する際の大きな武器になります。受講後には「自分も政策に発信できる」という自信が培われるはずです。

2) 越境的研究ネットワークの形成

異分野の学生・講師との濃密な対話や協働により、専攻の垣根を越えた人的ネットワークが構築できます。他研究科や他大学とのつながりの人的交流は、将来の共同研究や情報交換の財産となります。境界を越えて知をつなぐ経験それ自体が、創造的な研究発想にもつながるでしょう。

3) 他分野との知の接続による新視点

工学の視点で医療問題を捉える、医学の視点で社会制度を見る、など他分野の見方を取り入れることで、研究者としての視野が飛躍的に広がります。従来の専門だけに閉じこもっていたら出会えなかった発想や課題意識を得ることで、博士論文やプロジェクトにも新たな展開が生まれる可能性があります。

4) 英語による学術発信力の飛躍

英語で政策提言を書く・発表するといったハードルの高い経験を成し遂げることで、国際学会や英文論文投稿への抵抗感が大きく減ります。受講後にはグローバル研究者への自覚と自負が生まれるでしょう。自身の研究成果を世界に届ける第一歩として、本講義の経験は確実にプラスになります。

5) 専門家との交流

コース修了時には専門家との交流会があります。第一線で活躍する産官学の専門家から直接フィードバックやアドバイスをもらい、人脈を広げる貴重な機会となります。企業訪問や他受講生とのネットワーキングイベントもあり、希望者には、WHO WPRO や企業から短期の研修も用意されます。本講義は工夫次第で学生それぞれの研究キャリアに直結する学びの場となり得ます。

「国境を超えてヘルスケアでつながる」というテーマのもと、自らが境界を越えて成長する一大学院生にとって魅力的な学びと成長の場となることが期待されます。 [＜講義概要はこちらをクリック＞](#)